



23日のクリスマスホリー

12月22日(日)はアドベントの第4主日となり、教会ではクリスマス礼拝が守られました。この日まで私は大切にクリスマスホリー(西洋ヒイラギ)を育ててきました。たわわに緑色の実をつけていましたが、10月中旬にはほんのり赤味がついてきましたので、大きなビニール袋を3枚使って、枝を覆いました。完熟の実を小鳥へのクリスマスプレゼントにする予定でした。アドベントの時期には小鳥にも待ってもらおうと思っていたのです。クリスマスホリーは12月16日の誕生花とされていて、花言葉は「将来の見通し」、「神を信じます」ということです。素晴らしい花言葉です。

22日の朝には、クリスマスホリーをバルコニーの片隅から、リビングのガラス戸の前に移動し、覆いを外しました。なんと太っ腹に、小鳥たちには丸ごとクリスマスホリーをプレゼントいたしました。夕方、夫の姪、その娘のエミちゃん、私どもの長男家族が共にクリスマスを祝うために、我が家に集まりました。元気な顔を見ることが出来て本当に良かったです。皆で「きよしこの夜」、「諸人こぞりて」の讃美歌を歌い、お祈りをしました。その後、年に一度の、頑張って手作りしたクリスマスディナーを楽しみました。

エミちゃんは3歳になったばかりなのに、女の子のモード全開で、キュートそのもので愛くるしい。我が家の孫たちは男だけ。女の子の扱いに全く慣れていないようで、オドオドするばかり。エミちゃんはしっかり者のようで、すぐ慣れて、七五三の時の日本髪に結った姿を、スマホを操作してみんなに見せてくれました。可愛らしかったのは、ショートケーキを食べた時の顔でした。とろけるような幸せそうな顔をして食べてくれました。これを見ただけで作った甲斐があるというものです。

さて、クリスマスホリーはバルコニーで小鳥を待っていました。私たちも小鳥を待っていました。いつも朝早くから、ヒヨドリが飛んできてついばんでいきます。メジロも来ましたが、一、二粒ついばんだだけで、あっという間に飛び去ります。どうしてもカメラに捕らえることができません。ヒヨドリは用心しながらも、悠々と、たっぶり食べてくれます。一週間もたっていないのに、もう今日は全く枝に実がついていない状態になりました。さて、今年も小鳥たちにクリスマスプレゼントをやることができました。これからもっと寒くなってきますが、彼らは食べ物はどこで見つけるでしょうか。



ついばむヒヨドリ



実がなくなったクリスマスホリー



さびしいヒヨドリ